

東海村少年少女合唱団 第39回「定期演奏会」



小学1年生から大学生までの約40人で活動する、東海村少年少女合唱団の年に一度の定期演奏会です。東海村を題材にしたオリジナルの合唱組曲「ふるさと東海村」や、バンド演奏とともに歌う元気なステージなど、小さなお子さんから大人の方まで楽しめる内容です。ぜひ、ご家族皆さんでお越しください。

日時▼4月10日(日)午後2時30分開演(午後2時開場)

場所▼東海文化センター

入場料▼無料(全席自由)

その他▼▽入場の際は、入場整理券が必要となります。東海文化センターで配布していますので、希望する方は事前にお越しください。▽新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止・延期となる場合があります。

問い合わせ▼東海文化センター(☎282-8511)

♪ 元気いっぱいのステージをぜひお楽しみください♪



ふるさと歴訪
〜自然を探して〜

田畑に春を歌うヒバリ

暖かな日差しがぬくもりが増してくる頃。「ピーチュルピーチュル…」と元気な声が空から降ってくるようになります。鳴き声の主はヒバリ。水田、麦畑、河川敷など、低い草がまばらに生える環境に一年中暮らしている小鳥です。

大きさは約17センチメートルと、スズメよりほんの少し大きいくらい。地面をすばしっこく歩きながら、草の種や小さな虫を食べます。薄い茶色に、こげ茶色の細かな斑点が入った姿は、田畑の景色に溶け込んでなかなか見つかりませんが、春になると、オスは上空を舞いながら伸び伸びとした声でリズムカルにさえずるので、その存在を知ることが出来ます。一度地面から飛び立つと、長いときは5分間以上も空高くでさええずり続け、縄張りを宣言してメスへアピールします。

「雲雀」は春の季語の一つで、空へ舞い上がる様子は「揚雲雀」と呼ばれるなど、古くから親しまれてきました。茨城県の「県の鳥」にも指定されてお



農研機構 畜産研究部門 動物行動管理
研究領域 動物行動管理グループ

益子 美由希

り、田畑の広がる風景によく似合うシンボルです。

ところが、ヒバリは世界的に減っていると考えられています。原因は明らかではありませんが、農地の環境変化が一因ともいわれています。先日、東海村での野鳥観察会に参加した方からも、「最近ヒバリの声をあまり聞かなくなった」と伺いました。

季節の遅れ進みや、気候の違い、変化などを把握するために気象庁が行っている「生物季節観測」では、「さくらの開花」などと並んで「ひばりの初鳴」が長年観測されてきました。その年に初めてさえずりが確認された日は、水戸地方気象台では平均で3月7日と報告されています。

昨年1月以降、気象庁による観測は廃止されてしまいました。皆さんは「ひばりの初鳴」を聞かれたでしょうか。カレンダーにちよつと印を付けておくと、身近な生き物から季節の移ろいを感じられ、やがて環境の変化などにも気付かせてくれるかもしれません。